

こまつちゅうおう

# 小松中央地区 (二期)

(石川県小松市)

- 計 画 期 間 平成 23 年度～平成 26 年度
- 面 積 176ha
- 交付対象事業費 2,934.8 百万円
- 市人口 106,544 人

**ポイント** 都心にふさわしい魅力と快適性に恵まれた歴史・文化の香り高い躍動感あふれるまちづくり (こまつ巔頂が集うまち)

**地区概要** 道路整備、サイン、曳山会館等の基幹事業と、建物修景助成等の提案事業を一体的に実施することにより、歴史文化と近代の調和を図り、回遊性の向上、賑わいの創出に繋げる。

**目 標** 歴史的な地域資源と新たな文化施設による歴史文化回廊の創出、人々が集い賑わう魅力的な都市機能の集積化、魅力ある地域づくりを目指す。

## 指 標

交流機会の拡大、都市機能の充実及びまちなか居住の促進を図るための指標として、それぞれ、歴史文化施設の利用者数、小松駅利用者数、中央地域の人口を設定した。

歴史文化施設の利用者数	107,156 人/年 (H20) → 91,600 人/年 (H26)
小松駅利用者数	571 千人/年 (H21) → 612 千人/年 (H26)
中央地域の人口	18,120 人 (H21) → 17,600 人 (H26)

## 事業内容

- 基幹事業 (2,803.1 百万円) → 道路 (幅員 9.5m, 延長 500m)、広場 (2 箇所, 1,843 m<sup>2</sup>)、サイン (31 箇所)、せせらぎ (延長 40.0m)、照明施設 (4 箇所)、モニュメント、子供歌舞伎曳山会館 (みよっさ)、小松駅東地域交流センター (サイエンスヒルズこまつ)
- 提案事業 (131.7 百万円) → まちなみ景観向上助成、外国人観光客用ガイドシステム制作、ボンネット特急型電車保存整備、八日市公園、れんが花道通り装飾、九竜橋川改修、自転車駐車場防犯施設・照明 LED、サイエンス・ワークショップ、都市再生整備計画効果検証調査



## 地区の現況と課題

小松中央地区は、小松城の城下町（宿場町）として栄えた、小松市の中心市街地である。小松空港を有する南加賀地域の中心として、歴史的にも市民の意識の中でも「まちの顔」であったが、中心市街地の人口の減少、商店数の減少により、賑わいが失われている。それらに伴い、当地区内にある歴史文化施設の利用者が減少し、駅周辺の市街地の衰退も著しくなっており、また、様々な来訪者が集う交流施設や空間が少ない状況にある。

## 提案事業の特徴

### まちなみ景観向上助成事業

小松市景観条例により定めた伝統的景観重点地区や九竜橋川沿線において、小松市の歴史的資産である「こまつ町家」を保存するため、その修景等に要する費用の一部を助成する。

### 外国人観光客用ガイドシステム制作

外国人の訪来者や観光客が歩きやすいまちを目指し、市内主要地区にサインの設置・改善することに合せて、ウォーキングガイドやICTを活用したガイドシステムを製作する。

### ボンネット特急型電車保存整備

全国から鉄道ファンを呼び込むことで賑わいの創出と「乗りものまち・こまつ」の全国発信を図るため、全国でも2施設3車両の貴重な車両である『クハ489系ボンネット特急型電車』を小松駅前に保存・展示する。

## 計画策定プロセス

### 小松駅周辺活性化会議

官民一体となって南加賀地域の発展に資する方策を検討する組織として「小松駅周辺活性化会議」を設置して、新たな小松駅周辺の活性化方策や協力体制の構築などについて検討を行った。

### 曳山常設展示場検討委員会

勸進帳のふるさとである小松を歌舞伎で盛り上げようとする組織「歌舞伎のまち小松を考える会」の専門委員会として「曳山常設展示場検討委員会」を設置して、子供歌舞伎曳山展示館の設置場所、規模、展示方法、付属施設などについて検討を行った。



曳山で行われる子供歌舞伎の様子



修景されたこまつ町家



ボンネット特急型電車保存整備



小松駅周辺活性化会議の様子